

歌に触れる

遊縁の衆(人生を数倍楽しむ会)

◎平成二十三年六月二十五日(第八回)

(佐藤 亮照)

夕ヶノコの匂となりしが何故にてか笹の舞い散る竹の秋かな
年ごとに参加増えける総会で檀後の笑顔ありがたきこと

(黒沼 貞志)

老夫婦孫の写真と鳩サブレー 帰路の車中は 話題が尽きぬ
よみがえるむかしのテンポ 懐かしき流れに委ね 味わう雑踏
引越して娘と過ごす一週間 祝！新生活 願！慎ましく

(中村 昌平)

赤々と朝日に浮かぶさくらんぼ さわやかな風 収穫の時

(千葉 克明)

残雪の山並み見える白鷹路 堂々そびゆ 山形の春
新緑の林の中で野良仕事 生きる喜び 湧き出するかな
暴風雨 過ぎさりあとの朝日浴び 生きとし生きる 喜び想う
車窓より眺める田んぼ 青々と遅れし田植え 取り返すかも
間伐を気づかず過ぎす 今の人もやしの如き杉の木あわれ
年輪を重ねし年月 としつゆ いま気づく 体調悪し 梅雨の六月